

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		後期高齢者健診事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	内田秀一郎
	施策	15	健康づくりの推進			所属課	高齢者支援課	担当者名	衛藤京子
	基本事業	46	保険医療制度の健全な運営			所属班	高齢者保険班	(内線)	2115
予算科目		会計一般	款	項	目	事業連番	法令根拠	高齢者の医療の確保に関する法律 成果優先度評価結果：⑤ コスト削減優先度評価結果：⑨	
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	本事業は医療保険制度の改正により、平成20年度より老人保健制度に代わり後期高齢者医療制度が開始されることによる新たな事業である・原則75歳以上を対象とした後期高齢者の健診事業の実施・鍼灸費の補助（1人当たり年間30枚交付、1枚あたり1,000円を補助）・後期高齢者医療制度においては、健診事業は医療費適正化を図るために必要である・後期高齢者への人間ドック補助を廃止したことから、健康推進班と連携し基本健診やがん検診等の受診を呼びかける。
【業務の流れ】	健診機関である菊池養生園と委託契約を行い、健診申込者に問診表を送付する。健診費用の請求が国保連合会よりあるので、その都度支払いを行う。
【主な予算費目】	・健診関係事務費、委託料等13,214千円、鍼灸補助費1,320千円
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	・後期高齢者医療制度においては、健診事業は医療費適正化を図るために必要である・国保の被保険者のみ人間ドックの補助があるので、後期高齢者の人間ドック補助を求める要望が市民から多数ある。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO) 健診希望者1,633名に対して、5月中旬に問診表を送付し、養生園で健診を5月下旬より開始しました。		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 健診希望者1,800名に対して、5月下旬に問診表を送付し、養生園で健診を6月より開始する予定である。合志市内の医療機関において個別健診を開始する予定である。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア 申し込み書発送数	件	後期高齢者広域連合負担金(療養給付費)の増など後期高齢者検診事業委託料の減を相殺して増となるもの。
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
・後期高齢者医療被保険者		→ア 被保険者数 人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
・健診の実施により疾病の重病化を防止する。		→ア 健診の受診者数 人
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 意図が「健診の実施により疾病の重病化を防止する」になっていることから、多くの人が受診することによって、重病化を防止するため。また、高齢化に伴い、75歳以上の高齢者が増加することが予想されるため。		

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標		ア	件		800	708	750	1,633	1,600	1,700	1,800	
② 対象指標		ア	人		5,051	5,205	5,300	5,370	5,400	5,500	5,600	
③ 成果指標		ア	人		877	981	1,100	962	1,200	1,250	1,300	
投 入 費 量	事業内訳	国庫支出金	千円									(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他	千円	3,884	5,823	18,480	6,498	13,674	14,000	14,500		
		繰入金	千円									
		一般財源	千円	544	880	1,680	1,274	1,680	1,700	1,750		
	(A) 事業費計	千円	4,428	6,703	20,160	7,772	15,354	15,700	16,250			
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0		
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0		
	人件費	正規職員従事人数	人	2	4	4	4	4	4	4		
		延べ業務時間	時間	110	641	641	637	641	641	641		
	(B)人件費計		千円	440	2,551	2,551	2,624	2,640	2,640	2,640		
	トータルコスト(A)+(B)		千円	4,868	9,254	22,711	10,396	17,994	18,340	18,890		

事務事業名	後期高齢者健診事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 年齢到達者には希望調査を行っており、事業の周知を図っている。23年度より個別健診を開始することによって、高齢者の方も受診がしやすくなると思われる。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 健診の重要性を周知することが必要である。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 健診の対象者が75歳以上と限定されているため
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 生活機能評価健診等で重複する分は差し引いて請求してもらっているため。また、問診表の郵送も他の健診申込と同封して世帯主宛に送付することで、軽減を図っている。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 問診表の封入作業は養生園に委託している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 全ての75歳以上の高齢者を対象にしているので、公平である。また、健診費用は全て広域連合が負担している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 後期高齢者医療被保険者への健康診査は、高齢者医療確保法において広域連合の努力義務となっており、熊本県では各市町村に委託されている。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

後期高齢者医療の被保険者の多くはかかりつけの病院があり、その為健診を受けない方も多い。しかし、医療費適正化を図る為にも重要であり、未受診者への呼びかけや、受診者への健診結果の説明等のケアも必要である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								